

# 浜松地域のものづくり力を活かした 竹林の再生と新産業の創出について

平成27年2月23日

静岡県西部地域づくり活動支援協議会

# 1. 静岡県西部地域の課題・事業の背景

- 静岡県西部地域の森林・農地、多様な水産物等の豊かな資源と高いものづくり力を背景として、放置竹林を初めとする未利用資源の活用を行う。
- 例としては、竹を農畜産に利用して農畜産品の高品質化を図る。
- また竹を材料とする工業製品を開発・販売する。
- これらによって地域産業の育成を図り、長期的に地域づくり活動を支援することを目的とする。

## 2. 静岡県西部地域づくり活動支援協議会の構成

### ◎ 構成主体・役割（中間支援の内容）

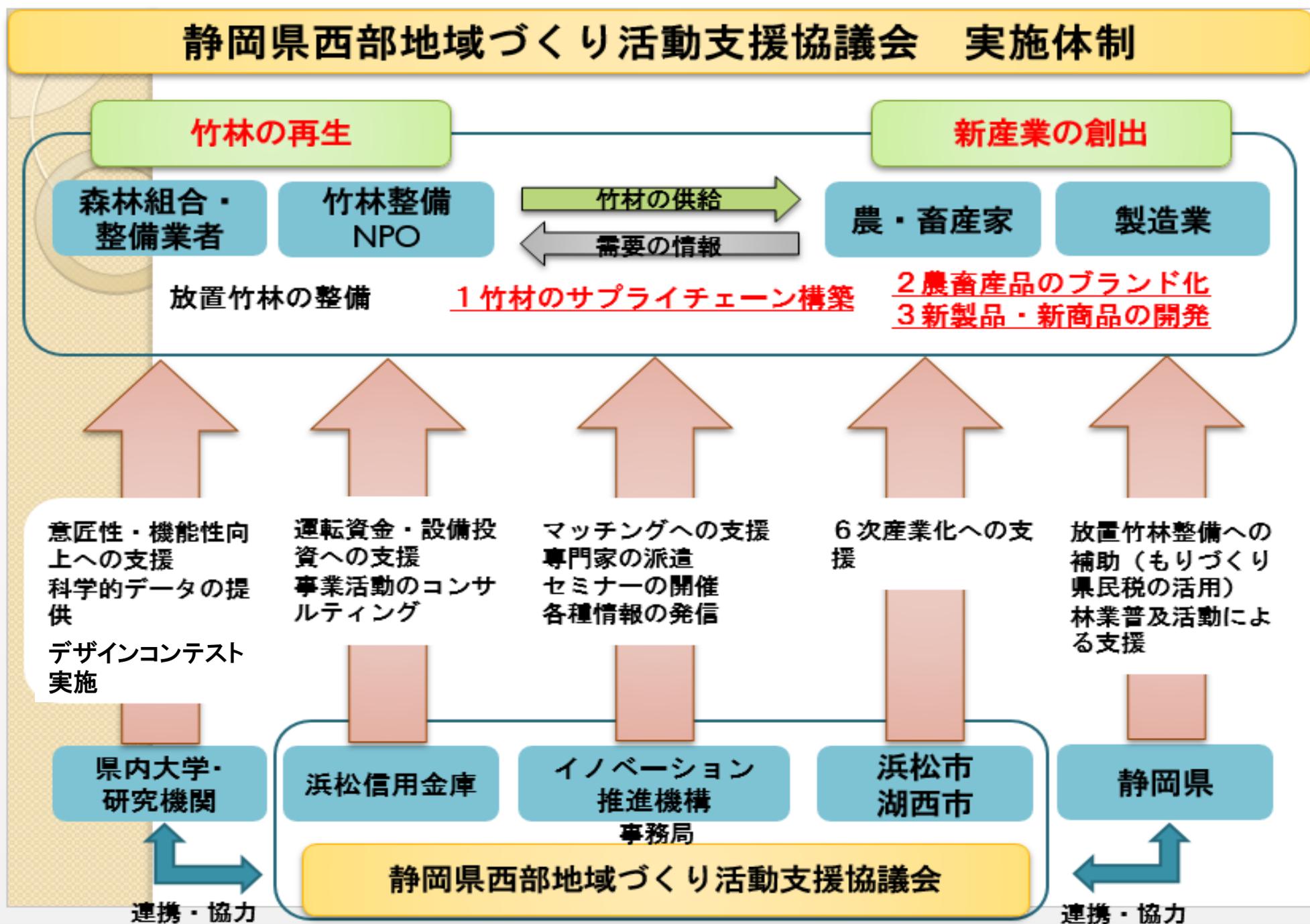
構成主体	役割（中間支援の内容）
浜松市	6次産業化支援
湖西市	6次産業化支援
浜松信用金庫	マッチング支援、事業活動の コンサルティング
浜松地域イノベーション推進機構	中間支援取りまとめ、専門家 派遣、セミナー・報告会開催、 各種情報発信

### 3. 担い手の概要

- 竹の微粉末を飼料に混ぜて、牛肉の品質を向上させている。
- 竹の微粉末を土壌改良剤、チップを肥料として、農産品の品質を向上させている。
- 周りに放置竹林が多くあるが、その竹が利用できない。
- 竹の入手に苦勞している。
- 竹を利用して品質を向上させた農畜産品をブランド化して売り出したい。
- 竹の積層材を使った製品を開発している。
- 地域ブランドとして売り出したい。



# 4. 事業概要



## 5. 各取組の内容

### ①取組1：竹材のサプライチェーン構築

- 浜松地域に広く存在する放置竹林は静岡県の森の力再生事業やボランティア活動等で伐採される。
- 今まで伐採された竹は元の場所に保管されるという計画となっており、竹を利用したい人が持ち出すことは出来なかった。
- さらに1mほどの高さで切られた竹を支えとして竹が積み上げられるが、数年経つと根元が腐り、ばらばらの状態になる。
- 竹自体はなかなか腐らないため、折角整備された竹林を別の用途に利用することが出来ない。



- 行政、地権者、整備事業者、利用者間の調整を実施し、必要とする利用者が伐採された竹材を利用できるような流通システムを構築するための支援を行う。
- 具体的には、森の力再生事業への申請段階で、申請者（事業者、地権者）と調整を行って伐採した竹を外部に持ち出す計画とする。
- 行政にこの計画を承認していただく。
- 伐採時に利用者が搬出し、竹材の利用を行う。

## ◎ 中間支援の実施体制

担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
伐採された竹を運び出し、農畜産に利用する	浜松市	情報提供、活動に対する助言
	湖西市	情報提供、活動に対する助言
	浜松信用金庫	情報提供
	浜松地域イノベーション推進機構	県、担い手との調整を行い、合意形成に参加。
	静岡県西部農林事務所	関係者一同を集めた現地での会議を招集し、利用できる合意を形成。

## ②取組 2 : 農畜産品のブランド化

- 竹の微粉末やチップを利用して高品位に仕上げた農畜産品（牛や米穀類）のブランド化支援を行う。
- 浜松の丸大鉄工が開発したPANDAで、500 $\mu$ 以下のサイズに微粉末化された竹は嫌気状態で乳酸発酵し、それを食べた牛、豚、鶏等の健康状態を向上させ、肉質もアップする。
- 乳酸発酵した竹微粉末や竹チップは農地の土壌改良材や肥料としても有用で、収穫量の増加や旨み・甘みの向上に繋がっている。



- 大学や研究機関での科学データ取得支援およびマーケティングによるブランドイメージ創出の支援を行う。
- 竹を飼料・肥料とした農畜産物を官能検査、影響分析で高品位であることを証明し、それらのデータを利用してマーケティング検討により、ブランド化を行う。
- 一般への販売を開始する前に有名ホテルで試食会を開催し、ブランドの周知宣伝を行う。



## ◎ 中間支援の実施体制

担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
竹によって農畜産品を高品位化する	浜松市	情報提供、安全性の追求
	湖西市	情報提供、試食会の案内を市のHPに掲載
	浜松信用金庫	試食会を後援、広報。関係企業の紹介。
	浜松地域イノベーション推進機構	試食会の準備から開催まで支援。官能検査、影響分析支援。
	静岡県立大学	牛肉の官能検査、影響分析を担当し、竹の効果进行分析。

### ③取組 3 : 新製品・新商品の開発

- ▶ 竹の突き板から積層材を製造し、それを機体構造に適用して鳥人間コンテストで優勝した企業が浜松にある。
- ▶ 竹の積層材は軽くて強度もあり、見た目も美しい。
- ▶ その特性を利用して、フロアランプや椅子等の開発を行っている。



- 竹を材料とする工業製品の開発のため、専門家によるデザイン向上や販路開拓・販売促進のためのマーケティング検討支援を行う。
- 専門家にデザインのアドバイスを受けるとともに、デザインを専門とする大学生によるデザイン・コンテストを実施し、竹製品の美しさをPRする。
- 販売方法についてはマーケティング専門家の助言を受け、販売を開始する。

## ◎ 中間支援の実施体制

担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
竹を利用した工業製品を開発し販売する	浜松市	情報提供
	湖西市	情報提供
	浜松信用金庫	マーケティング専門家紹介。
	浜松地域イノベーション推進機構	マーケティング/デザイン専門家派遣。デザインコンテスト支援。
	静岡文化芸術大学	専門家としてデザイン指導。デザインコンテスト開催。

## 6. 各取組の成果と課題

### ①取組1：竹材のサプライチェーン構築

#### ◎取組1の成果・課題

協議会の働きかけに応じて、静岡県西部農林事務所が主体となり、地権者、整備事業者、利用者、協議会との会合を開催し、現地確認の上、2箇所の竹林伐採箇所での利用が合意された。

それぞれの場所で整備事業者（森林組合）が伐採した竹を利用者が運び出し、農畜産に利用した。

このような合意形成は全国でも初めてであり、今回の手順で来年度以降もサプライチェーン構築を推進するシステムが構築された。



## ◎活動の社会的意義・社会的成果

放置竹林の有効利用のシステムが構築された全国でも初めてのケース。モデルケースとして全国に展開したい。

これによって放置竹林の伐採が進めば、環境改善になり、かつ農畜産への利用が促進される。

協議会活動を知った人から竹の提供の申し出あり。

## ◎地域ビジネスの達成状況・今後の見通し

実作業は年度末になってしまい、有効利用は始まったばかりである。来年度以降はサプライチェーンを拡大し、年間を通じて利用できるようにしたい。



## ◎ 成果目標

成果目標	現状 (年度 当初)	目標	達成状況
放置竹林で伐採された竹を必要とする利用者へ供給できる仕組みを作る。伐採された竹を利用者に供給するモデル・ケースをスタートする。	0件	2件	2件達成。 システムの 確立。

## ②取組2：農畜産品のブランド化

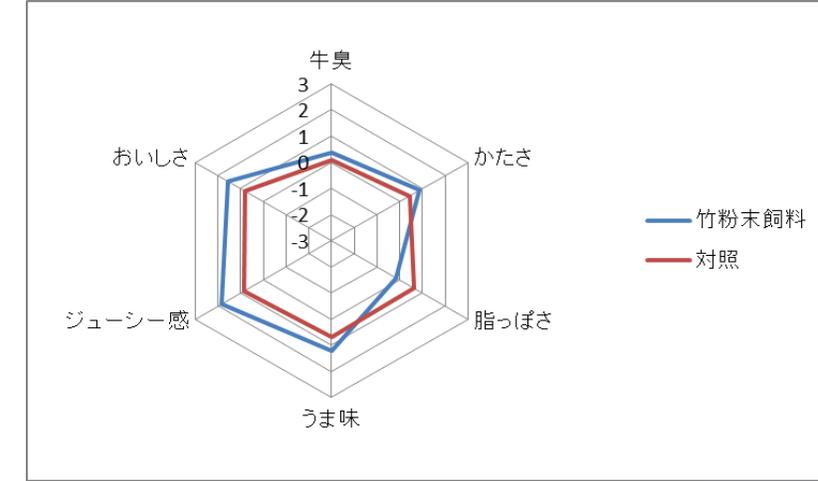
### ◎取組2の成果・課題

竹の農畜産品に及ぼす影響について、牛肉の官能検査、影響分析で科学データを取得した。

マーケティング専門家によるブランド化の指導を受けた。

竹を使った農畜産品を広報するために市内のホテルで試食会“竹由来の料理を楽しむ会”を開催。

この機会に竹を農畜産、食品に利用する企業が増加した。ホテルも竹に関する食品の販売、食事会の開催を企画することに。



牛肉の官能検査結果



日時：平成26年 **12月11日(木)**  
11:00～13:30

場所：ホテルコンコルド浜松  
静岡県浜松市中区元城町109-18 TEL：053-457-1111  
会費：3,000円  
申込受付後、振込先を連絡いたします。会費振込を確認後にチケットをお送りしますので、チケットを当日ご持参下さい。

定員：120名  
次第：①主催者の挨拶  
②シェフによるメニュー紹介  
③試食・交流  
竹に関する各種製品の展示も行う予定です。

主催：静岡県西部地域づくり活動支援協議会  
後援：浜松信用金庫  
浜松地域資源活用研究会  
浜松地域イノベーション推進機構

**竹由来の料理を楽しむ会 参加申込書**

事業所名	氏名
所属・役職	
電話番号( )	FAX番号( )
email	チケット枚数
	枚

※参加申込書は、11月28日(金)までにご返信ください。  
会費：3,000円(申込み受付後、振込先を連絡いたします。会費振込を確認後にチケットをお送りしますので、チケットを当日ご持参下さい。)  
ホームページ <http://www.haisai.jp/calender/7923.html> から申し込み可能です！

事務局：公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構 〒432-8036 静岡県浜松市中区東伊場二丁目7番1号 浜松商工会議所会館8階  
TEL：053-457-1111 FAX：053-459-2100



### ◎ 活動の社会的意義・社会的成果

試食会に170名が参加し、竹に対する認識が高まった（アンケート結果）。担い手とホテルとのマッチング。

菓子業界でも竹を使ったスイーツの試作、販売を開始。

竹を使った野菜／果物栽培農家の増加。

### ◎ 地域ビジネスの達成状況・今後の見通し

試食会を開催したホテルコンコルド浜松では今後、竹を使った食品を販売することや食事会を検討中。担い手の生産物を利用する。



## ◎ 成果目標

成果目標	現状 (年度 当初)	目標	達成状況
市内有名ホテルにおいて試食会を開催する。試食会は有料とする。	0	売上 30万円	47万円

### ③取組3：新製品・新商品の開発

#### ◎取組3の成果・課題

マーケティング専門家の指導により、担い手のHP開設（H27/1/16）。同時に販売開始。東京でのフロアランプの展示販売も開始。

デザインコンテストにより商品開発のヒント獲得と、入賞作品の展示により竹の美しさのアピール。

デザイン専門家の指導により、竹の杢目を活かした椅子の開発開始。鋭意試作に取り組んでおり、来年度には販売予定。



■展示会場写真（左より、A 騙し窓、B sheet stool、C 花飾り、D 親子で作る竹クラフト、E Bamboo Glider）

## ◎活動の社会的意義・社会的成果

竹の工業製品化により竹の有効活用から放置竹林の解消。



## ◎地域ビジネスの達成状況・今後の見通し

フロアランプの販売開始。東京での展示販売も開始。

竹の柎目を活かした椅子の開発に取り組んでおり、来年度の早いうちに販売開始の予定。

さらにボトルラックを販売開始。楽器メーカーとのコラボによるエレキ・ギターの開発にも着手。

同様の取組を他社にも拡大、地域産業の創生に繋げる。



## ◎ 成果目標

成果目標	現状 (年度 当初)	目標	達成状況
高品質な竹製の工業製品を開発し、デザイン/マーケティング検討を行って、高級品として販売する。	未販売	年間売上 200万円	販売開始。今後の売上見込みは年間200万円以上。試食会でも好評であり、欲しい人が多く、十分に見込み有り。

## 7. 中間支援における課題と対応

- 取組1においては、以前からの働きかけもあり行政が積極的に関与し、関係者間の調整をスムーズに行うことができた。
- 協議会セミナーによって地域に活動を宣伝したことにより、自治会等の積極的な協力が得られた。
- 取組2においては、試食会という明確なターゲットを設定することにより、協議会全員が協力して支援を行うことができた。

- 取組3においては協議会メンバーのリコメンドにより、適切なアドバイザーを選定することができ、デザイン/マーケティングの両方で適切なアドバイスを受けることができた。
- 協議会メンバーのそれぞれの能力を有効活用することによって、行政の協力、大学の協力、地域の協力、ホテルの協力、と各方面の協力が得られた。

## 8. 事業終了後の予定

### ◎活動費の確保

来年度以降は新たな財源の獲得を目指す。基本的には担い手の独自資金で活動を継続する。

### ◎協議会の活動の継続に向けた事業展開

- 平成26年度を取組をさらに発展させ、サプライチェーンの仕組み拡大、農畜産品のブランド化に向けた担い手の拡大、さらなる新製品・新商品の開発を図る。

## ◎活動の体制

当面は協議会が継続して支援する。将来的にはNPO法人を起こす。

## ◎新たな担い手に対する支援の事業計画

- 取組1は今年度と同じ支援。年間を通じて竹を利用できるようにしたい。
- 取組2は担い手のグループ化を図り、活動を拡大する。
- 取組3は新たな財源を獲得した上で支援を行う。